

九州病害虫研究会

第94回研究発表会

プログラム

共催 日本植物病理学会九州部会

2017年11月8日（水）

会場 沖縄県立博物館・美術館

〒900-0006 那覇市おもろまち3丁目1番1号

TEL: 098-941-8200

発表会場および進行予定

虫害 講演9分（1鈴7分、2鈴9分） 質疑2分（終鈴11分）

病害 講演10分（1鈴8分、2鈴10分） 質疑2分（終鈴12分）

虫害会場 口頭発表 講堂 (3F)		病害会場			
		口頭発表（第1会場） 博物館講座室 (1F)		ポスター発表（第2会場） 県民ギャラリースタジオ (1F)	
9:30-12:04	No.1～14	9:35-11:59	No.1～12	9:40	事務連絡
				9:45	ポスター掲示
				10:15	閲覧開始
昼休み					
13:00-17:13	No.15～37	13:00-13:25	受賞講演	13:40-14:30	* 植物病理学会九州部会幹事会
		13:40-16:40	No.13-27	15:00-16:00	ポスターセッション (P1-P10)
				16:15-16:45	ポスター撤収
* 植物病理学会九州部会幹事会開催中（13:40-14:30）は県民ギャラリースタジオには入場できません。					

九州病害虫研究会

(The Association for Plant Protection of Kyushu)

<http://9byochu.sakura.ne.jp/main.html>

【講演にあたっての注意事項・その他】

・講演はWindows Microsoft PowerPoint 2000以上で作成したスライドを液晶プロジェクターで投影しながら行って頂きます。（パソコンは、予め会場に設置したものを用います。ご自身のパソコンは接続できませんのでご注意ください。）

・講演ファイルは必ずCD-ROMに書き込んでお持ち下さい。
USBメモリは使用できませんのでご注意ください。

・ファイルの入ったCD-ROMは、午前・午後の開始前までに会場係に直接届け、作動の可否をご確認下さい。発表用パソコンへのインストールは、病害・虫害各会場係が行います。

・ファイル名は、**講演番号(半角2ケタ)+発表者氏名(例「03九州太郎」)**としてください。

・講演要旨は、本会ホームページ内に掲載しております。印刷してご持参下さい。

【虫害会場のみ】

・講演ファイルは事前に発表会事務局まで（kitamura.t@affrc.go.jp）に送付してください。

〆切りは 2017年10月27日（金）です。

・音声、動画が含まれる場合は別途ご相談ください。

・発表終了者に次の発表の座長を担当していただきます。
ただし、午前、午後の最初の発表については事務局で対応します。

【九州病虫害研究会第95回春季研究発表会の開催お知らせ】

第95回春季研究発表会を下記のとおり開催します。

記

1. 日時 2018年2月1日(木) 9:00～17:00 (予定)

2. 会場 菊南温泉ユウベルホテル
〒861-5517 熊本県熊本市北区鶴羽田3丁目10-1
(TEL) 096-344-5600
会場ホームページ (<http://kikunan-ublhotel.jp/>)

詳細については後日、当会ホームページにて掲載いたします。

病害の部

第1会場：沖縄県立博物館・美術館 1F 博物館講座室

第2会場：沖縄県立博物館・美術館 1F 県民ギャラリースタジオ

口頭発表（第1会場：博物館講座室）

講演10分(1鈴8分、2鈴10分) 質疑2分(終鈴12分)

(●の講演者は、学生優秀発表者賞授賞候補者)

<午前の部>

9:30 事務連絡

座長：菖蒲信一郎（佐賀農業セ）

- 1 9:35 **タマネギベと病菌卵胞子の土壌からの抽出と生死判別法について**
●児玉進之介・高木里歩・草場基章
(佐賀大農)
- 2 9:47 **サッポロフキバツタから分離された昆虫病原性糸状菌の同定**
●山岸遥河・田場聡・立田晴記・関根健太郎
(琉球大農)
- 3 9:59 **アワユキセンダングサ抽出液を混合したPVA（ポリビニルアルコール）フィルムによるサツマイモネコブセンチュウの防除効果**
●伊藤創¹・田場聡¹・伊藤勝仁²・生田大地³
(¹琉球大農・²株式会社アイセロ・³株式会社中九州クボタ)
- 4 10:11 ***Colletotrichum tropicale*によるジャボチカバ炭疽病（新称）の発生**
●玉城優太¹・田場 聡¹・福地賢人¹・富高保弘²・関根健太郎¹・
安次富厚³・澤岬哲也⁴
(¹琉球大農・²九州沖縄農研・³沖縄農研セ・⁴沖縄農研セ名護)

座長：藤原和樹（九州沖縄農研）

- 5 10:23 **九州のゴルフ場においてクリーピングベントグラスに発生した *Pantoea ananatis* による褐変病**
●東 経行¹・飯山和弘¹・伊藤孝弥¹・奥野健太郎²・土屋健一¹・
古屋成人¹
(¹九大院農・²シンジェンタ)
- 6 10:35 **土壌への竹粉施用によるトマト青枯病の防除効果**
●藤堂麻依・中原浩貴・吉川麻璃萌・松添直隆
(熊本県大院環境共生)

- 7 10:47 **ゲノム改変技術によるサトウキビの育種について**
 ●西橋潤¹・近藤聡²・大音徳²・太田邦史³・桑田茂¹・大里修一¹
 (¹明治大院農・²トヨタ自動車・³東大院・総合文化)
- 8 10:59 **新規ゲノム改変育種技術を用いたイネ耐病性系統取得の試み**
 ●酒井皓大¹・三宅駿史¹・栗原美樹¹・近藤聡²・村本伸彦³・
 光川典宏³・大音徳²・太田邦史⁴・桑田茂¹・大里修一¹
 (¹明治大院農・²トヨタ自動車・³豊田中研・⁴東大院・総合文化)

座長：富高保弘（九州沖縄農研）

- 9 11:11 **イネいもち病菌における菌糸融合検出系の構築に向けて**
 ●松尾涼平・前田一行・加納寛也・桑田茂・大里修一
 (明治大院農)
- 10 11:23 **SSR分析によるメヒシバいもち病菌の遺伝的集団構造の解析**
 ●島崎茜・草場基章
 (佐賀大農)
- 11 11:35 **サンセベリア炭疽病菌Sa-1-2株のドラフトゲノム解析**
 ●中森大智¹・藤川貴史²・中村正幸¹・岩井 久¹
 (¹鹿児島大農・²農研機構果樹茶部門)
- 12 11:47 **イネ幼苗の病徴型に基づいた*Rice stripe virus*の相対蓄積量の解析**
 椎葉美里¹・奥田 充²・○竹下 稔¹
 (¹宮大農・²農研機構中央農研)

<休憩> 12:00~13:00

<午後の部>

13:00	平成28年度受賞講演	講演20分, 討論 5分
	地域貢献賞	座長：菊原 賢次（福岡農林総試）
	「イネもみ枯細菌病を中心とした水稻病害の発生生態の 解明及び防除法の開発」	
	元 福岡県農業総合試験場長	
	前 九州病害虫防除推進協議会常務理事	吉村 大三郎 氏

- 13 13:40 **新規ソベモウイルスの機械的接種によるダイズ褐斑粒の発生確認**
○大貫正俊・高橋将一
(九州沖縄農研)
- 14 13:52 **ホオズキのトバモウイルスに対する弱毒ウイルスの防除効果**
○臼井真奈美¹・早日早貴²・黒木修一¹・櫛間義幸¹・富高保弘³・
寺本 敏¹
(¹宮崎総農試・²宮崎県西臼杵支庁・³九州沖縄農研)
- 15 14:04 **RIPA法によるメロン黄化えそウイルスの簡易診断**
○眞境名元次¹・玉代勢優奈¹・富高保弘²
(¹沖縄防技セ・²九州沖縄農研)
- 16 14:16 **PCR法と前培養法を組み合わせたカーネーション萎凋細菌病菌
感染苗の新たな検査方法の検討**
○植松紘一¹・堀田光生²
(¹長崎農技セ・²農研機構農環研)

- 17 14:28 **イチジクで発生した*Lasiodiplodia theobromae*によるラシオディプロ
ディア落葉病（新称）**
○齊藤紀子¹・菊原賢次¹・野方仁²
(¹福岡農林総試・²京築普及指導セ)
- 18 14:40 ***Rhizopus oryzae* によるカンキツ黒かび病（病原追加）**
○田代暢哉・浦川（尾形）綾子・正司和之・松尾洋一
(佐賀上場営農セ)
- 19 14:52 **2種*Talaromyces* 属菌によるパインアップル小果腐敗病の発生
（病原追加）**
○山城麻希・大城篤・安次富厚
(沖縄農研セ)
- 20 15:04 **鹿児島県本土および沖永良部島におけるサトイモ疫病の初発時期**
○湯田達也・西岡一也・尾松直志・西八束
(鹿児島農総セ)

-
- 21 15:16 **ジャガイモ抉芽を使用した種いも消毒剤の薬害観察に適する温度条件**
○菅 康弘
(長崎農技セ)
- 22 15:28 **タマネギべと病に対する各種薬剤の二次伝染抑制効果**
○菖蒲信一郎・渡邊幸子
(佐賀農業セ)
- 23 15:40 **福岡県で採取されたナシ黒星病菌におけるDMI剤感受性の低下**
○菊原賢次¹・飯山和弘²・松元賢²・古屋成人²
(¹福岡農林試・²九州大)

座長：菅 康弘（長崎農技セ）

-
- 24 15:52 ***Pectobacterium carotovorum* によるスイゼンジナ軟腐病の発生（新称）**
○玉代勢優奈¹・大城篤²・安次富厚²
(¹沖縄防技セ・²沖縄農研セ)
- 25 16:04 **九州で発生したショウガ科植物青枯病と病原細菌の系統解析**
○土屋健一¹・Htet Wai Wai Kyaw¹・黒瀬大介²・中村友香¹・
森田泰彰³・矢野和孝³・安次富厚⁴・大城 篤⁴・堀田光生⁵・
松元 賢⁶・飯山和弘¹・古屋成人¹
(¹九大院農・²CABI Europe-UK・³高知農技セ・⁴沖縄農研セ・
⁵農研機構農環研・⁶九大熱研セ)
- 26 16:16 **キウイフルーツかいよう病（biovar1）に対する*Actinidia chinensis* 品種の抵抗性評価**
○篠崎 毅¹・青野光男¹・清水伸一¹・成松耀司²・越智政友³
(¹愛媛果樹研セ・²愛媛中予局・³ゼスプリ・ジャパン)
- 27 16:28 **カンキツグリーニング病伝搬の感染源としてのゲッキツ樹のハザード解析**
○浦野知¹・宮路克彦²・井上広光³・藤川貴史³
(¹ペコIPMパイロット・²鹿児島農総セ・³農研機構果樹茶部門)
- 17:00 植物病理学会九州部会総会

ポスター発表（第2会場：県民ギャラリースタジオ）

説明5分 質疑2分

- 9:40 事務連絡
- 9:45 ポスター掲示
- 10:15 ポスター閲覧開始
- 13:40～ [植物病理学会九州部会幹事会を開催]
14:30 (幹事会開催中は会場には入れません)
- 15:00～ ポスターセッション
16:00

座長：竹下 稔（宮大農）

-
- P1 **ソラマメにえそモザイク症状を引き起こすBymovirus種の同定**
○富高保弘¹・國友映理子²・横山とも子²・宇杉富雄³・津田新哉
(¹九州沖縄農研・²千葉農総セ・³中央農研)
- P2 **新規ディジェネレートプライマーを用いたエマラウイルスの網羅的検出**
○久保田健嗣¹・千秋祐也¹・富高保弘²・田中稔¹・津田新哉¹
(¹農研機構・中央農研・²農研機構・九沖農研)
- P3 **シソモザイクウイルス感染シソ株の無病徴側枝からのシソサビダニによるウイルス獲得可能性の検討**
○千秋祐也¹・宇杉富雄¹・富高保弘²・田中 稔¹・津田新哉¹・
久保田健嗣¹
(¹農研機構・中央農研・²農研機構・九沖農研)
- P4 **改良DIBA法における抗体処理時間及び基質・発色反応時間の短縮**
○櫛間義幸
(宮崎総農試)

座長：菅野善明（南九州大環境園芸）

-
- P5 **カンキツグリーニング病発生地におけるカンキツウイルス・ウイロイドの発生調査**
○富村健太¹・平松紀士²・真武信一³・藤川貴史¹
(¹農研機構果樹茶部門・²沖縄北部農水振セ・³沖縄県農研セ)

P6 **トマト栽培施設内で発生するムラサキカタバミのトマト黄化葉巻病 (tomato yellow leaf curl virus) の感染状況調査**
○大城篤¹・玉代勢優奈²・貴島圭介³・稲田拓郎¹・安次富厚¹・山城麻希¹
(¹沖縄農研セ・²沖縄防技セ・³八重山農林振興セ)

P7 **沖縄県内のパッションフルーツにおける各種ウイルス病の発生実態**
○安次富厚¹・宮城早苗²・稲田拓郎¹・大城篤¹・山城麻希¹・
松村まさと³・阿波根直恭³・大城和久⁴・長浜隆市⁴・目取眞要⁵・
鍛冶山拓美⁵・大石彩子⁶・下地聡子⁶・渡久山みき⁷・貴島圭介⁸・
山口綾子⁹・細川理恵⁹・寺村皓平⁹・岩井久¹⁰
(¹沖縄農研セ・²沖縄県庁・³沖縄農研セ名護・⁴沖縄北部農改・
⁵沖縄中部農改・⁶沖縄南部農改・⁷宮古農改・⁸八重山農改・
⁹沖縄防技セ・¹⁰鹿児島大農)

座長：中村 正幸(鹿児島大農)

P8 **宮崎県におけるサトイモ疫病の発生推移**
○久野公子¹・櫛間義幸¹・黒木修一¹・田村逸美²
(¹宮崎総農試・²サンケイ化学)

P9 **人工培地を利用した潜伏感染カンキツグリーンング病原細菌の
検出技術の開発**
○藤原和樹¹・西菜穂子²・福元智博²・細川理恵³・藤川貴史¹
(¹農研機構・²鹿児島農総セ・³沖縄防技セ)

P10 **ダイレクトリアルタイムPCRによるカンキツ類からのグリーンング病
病原細菌検出の試み**
○尾川 宜広¹・福元 智博¹・山口 卓宏¹・藤川貴史²
(¹鹿児島農総セ大島・²農研機構果樹茶部門)

16:15 ポスター閲覧終了、撤去開始

16:45 ポスター撤去完了

17:00 [第1会場にて、植物病理学会九州部会総会を開催]

虫害の部

会場：沖縄県立博物館・美術館 3F 講堂

講演9分（1鈴7分、2鈴9分）質疑2分（終鈴11分）

<午前の部> 9:30~12:04

1 3種の寄主植物から採取されるイモゾウムシ野生オスの体サイズ

9:30 ○大石 毅・本間 淳^{1,2)}・日室千尋^{1,2)}・松山隆志・照屋清仁³⁾
(沖縄防技セ・1) 琉球大農・2) 琉球産経・3) 沖農村計画)

2 イモゾウムシ移動分散における雌雄間差と季節の影響

9:41 ○市瀬克也・安田慶次¹⁾・Gadi, M.V.P. Reddy²⁾
(九州沖縄農研・1) 沖縄県森林資源研究センター・2) モンタナ州立大)

3 イモゾウムシの雄は射精物を用いて雌の再交尾を抑制する

9:52 ○日室千尋¹⁾²⁾³⁾・池川雄亮¹⁾²⁾³⁾・本間 淳¹⁾²⁾³⁾
(1) 沖縄県病害虫防技セ・2) 琉球産経・3) 琉球大学農学部)

4 イモゾウムシ人工飼料の保存期間に関する試験

10:03 ○金城美沙・大石毅・日室千尋¹⁾・本間淳¹⁾
(沖縄防技セ・1) 琉球産経)

5 サツマイモのセンチュウ類に対する新規薬剤「ビーラム粒剤」の防除効果

10:14 ○福田 健・重水 剛¹⁾
(鹿児島農総セ茶業部・1) 鹿児島県曾於畑かんセ)

6 中国からの海外多飛来によるヒメトビウンカの薬剤感受性動向

10:25 ○真田幸代、藤井智久、松倉敬一郎、松村正哉
(農研機構・九州沖縄農研)

7 水稻の高密度育苗に対する箱粒剤施用のウンカ類およびツマグロヨコバイに対する防除効果の検討

10:36 ○下大園佳由・黒木修一・柑本俊樹¹⁾・八丁 昭龍¹⁾・井園佳文²⁾
(宮崎総農試・1) 日植防研宮崎・2)日植防研高知)

8 ホソヘリカメムシによる花芽や種子の吸汁がダイズとツルマメに及ぼす影響

10:47 ○中林ゆい・安達修平¹⁾・藤田将平・鈴木義人²⁾・遠藤信幸³⁾・徳田誠
(佐賀大農・1) 鹿大院連合農学・2) 茨城大農・3) 中央農研)

9 クレオメをおとり植物として防除した場合のダイズのカメムシ類の防除効果

10:58 ○本田善之・岩本哲弥
(山口県農林総技セ)

10 ミナミアオカメムシの寄主植物としてのオクラの好適性

11:09 ○水谷信夫・北村登史雄
(九州沖縄農研)

11 露地オクラ圃場での保全的生物的防除～天敵類の強化

11:20 ○吉永英樹・沖野圭志朗¹⁾・大野和朗
(宮崎大農、1) 宮崎県北諸県農林振興局)

12 全季節を通してヒメハナカメムシ類を温存する方策

11:31 ○柿元一樹・安部順一郎¹⁾
(鹿児島農開総セ・1) 農研機構・西日本農研)

13 沖縄県の春夏期に捕食性カメムシ類の天敵温存植物として有望な種のスクリーニング

11:42 ○秋田愛子・上里卓己・守屋伸生・喜久村智子¹⁾・安次富厚
(沖縄農研セ・1) 沖縄北部普及課)

14 天敵温存植物がシルベストリコバチに及ぼす影響

11:53 ○秋山空隆・Barry Adema・大野和朗
(宮崎大農)

休憩 12:04～13:00

<午後の部> 13:00～17:13

15 鹿児島県本土における2017年のアシビロヘリカメムシの発生状況

13:00 ○松比良邦彦・西 八東
(鹿児島農総セ)

16 分散生態、交雑頻度および耐寒性の比較による飛ばないナミテントウの野外放飼に伴う生態的リスクの評価

13:11 木下智章・高橋慎弥・安達修平¹⁾・世古智一²⁾・○徳田 誠
(佐賀大農・1) 鹿大院連合農学・2) 農研機構西日本農研)

- 17 **沖縄県で発見される *Haplothrips* 属アザミウマと優占種シナクダアザミウマの捕食能力**
13:22 ○喜久村智子・中尾史郎¹⁾
(沖縄北部普及課・¹⁾ 京都府立大)
- 18 **ワサビ登録薬剤のワサビクダアザミウマに対する防除効果の確認**
13:33 ○岩本哲弥・本田善之
(山口農林総技セ)
- 19 **沖縄県に導入された本土産イチゴ苗の防除管理状況と害虫の発生状況について**
13:44 ○河村太
(沖縄防技セ)
- 20 **ナスミバエ *Bactrocera latifrons* の被害回避を可能とする幾つかの知見**
13:55 ○谷口昌弘・佐渡山安常
(沖縄県病害虫防除技術センター)
- 21 **ツヤアオカメムシの休眠に伴う呼吸量の変化 (第2報)**
14:06 ○綱島彩香・糸山享
(明治大院・農)
- 22 **ツヤアオカメムシの卵寄生蜂ニホンクロタマゴバチの寄生、発育、生存に対する温度の影響**
14:17 ○九鬼奈紀・木村颯・和田芳樹・糸山享
(明治大農)
- 23 **人工飼料により飼育したオリーブアナアキゾウムシの発育増殖特性**
14:28 ○松田浩輝・吉田一貴・徳田 誠
(佐賀大農)
- 24 **サビマダラオオホソカタムシの飼育を容易にする代替餌の検討**
14:39 松岡俊治・大野啓太郎・甲斐拓海・○糸山享
(明治大農)
- 25 **チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク時期と気温との関係**
14:50 ○口木文孝・白石祥子・野口真弓
(佐賀果樹試)

- 26 **佐賀県のカンキツ園周辺のチャ等から採集したチャノキイロアザミウマに対する各種薬剤の殺虫効果**
15:01 ○白石祥子・ロ木文孝・野口真弓
(佐賀果樹試)
- 27 **石垣島におけるアテモヤの訪花性甲虫の種構成、ならびにケシクスイ科優占2種の発生と開花量、結実との関連**
15:12 ○大野 豪^{1,2)}・久松定智³⁾・北野峻伸⁴⁾・本間 淳^{1,5)}
(1) 沖縄病害虫防技セ・2) 沖縄農研セ石垣・3) 愛媛衛環研生物多様性セ・4) 帝装化成・5) 琉球産経)
- 28 **鹿児島県のアボカドに発生する害虫相とハマキムシ類に対する交信攪乱剤の効果**
15:23 ○西 菜穂子・宮路克彦¹⁾・坂巻祥孝²⁾・山田夏奈海³⁾・都外川総明³⁾・西 八束
(鹿児島農総セ・1) 鹿児島農総セ茶業部・2) 鹿児島大農・3) 鹿児島県立農大)
- 29 **局所的な不妊虫放飼で大域的な野生虫の根絶は可能か：個体ベースモデルを用いたシミュレーション**
15:34 ○池川雄亮^{1,2,3)}・日室千尋^{1,2,3)}・本間淳^{1,2,3)}
(1) 琉球産経・2) 沖縄県病害虫防除技術センター・3) 琉球大学)
- 30 **侵入警戒トラップ誘殺データを用いてウリミバエ不妊虫放飼を適正管理する方法の開発**
15:45 ○本間 淳^{1,2,3)}・原口 大⁴⁾・日室千尋^{1,2,3)}・池川雄亮^{1,2,3)}・松山隆志²⁾
(1) 琉球産経・2) 沖縄病害虫防技セ・3) 琉球大学農学部・4) 沖縄農研セ宮古)
- 31 **2015年に奄美大島で再発生したミカンコミバエ種群の国内分散の可能性の検討**
15:56 ○大塚彰・松村正哉¹⁾・中村浩昭²⁾・山口卓宏³⁾・佐渡山安常⁴⁾
(農研機構革新工学セ・1) 農研機構九州沖縄農研・2) 鹿児島県・3) 鹿児島農総セ大島・4) 沖縄防技セ)
- 32 **ミカンコミバエ兄弟解析用マイクロサテライト (SSR) マーカーの探索**
16:07 ○金城聖良¹⁾・豊里哲也²⁾・本間淳^{1,2,3)}・立田晴記³⁾・鶴井香織⁴⁾・新里尚也⁵⁾・青山洋昭⁶⁾・沢田裕一⁷⁾
(1) 沖防セ・2) 琉球産経・3) 琉大農・4) 琉大戦略・5) 熱生研・6) 琉大 COMB・7) 滋賀県大)
- 33 **ゲッキツ樹上におけるミカンキジラミ成虫の寄生虫数と見取り調査虫数の関係**
16:18 ○宮路克彦・西菜穂子・山口卓宏・浦野 知¹⁾
(鹿児島農総セ・1) ペコ I PMパイロット)

- 34 **ミカンキジラミ成虫体内におけるカンキツグリーニング病原細菌増殖率の
季節による違い**
16:29 ○細川理恵
 (沖縄防技セ)
- 35 **吸水性ポリマーを用いた薬剤処理によるミカンキジラミ防除効果の検証**
16:40 ○福元智博・嶽崎 研・山口卓宏
 (鹿児島農総セ)
- 36 **夏秋トマト栽培におけるホスチアゼート液剤の適切な処理時期およびネコブセンチュウ
防除体系の検討**
16:51 ○鈴木智範
 (大分農林水研農業)
- 37 **アセチル化グリセリドとタバコカスミカメの併用によるタバココナジラミの防除効果**
17:02 ○北村登史雄・大西純¹⁾・加島崇之²⁾・水谷信夫
 (農研機構・九州沖縄農研・1) 農研機構・野菜花き研・2)石原産業)